

報道関係者各位

2017年12月1日

公益財団法人MSD生命科学財団

研究助成 2017-がん領域-

第一回の交付者決定

公益財団法人MSD生命科学財団(東京都千代田区 代表理事:諸岡 健雄、以下MSD生命科学財団)は、「研究助成-がん領域-」プログラムの交付者が決定したことを発表しました。

本研究助成は、本年創設したものであり、次の2つのプログラムからなります。

- ・がん研究に一定の成果・実績を有し、日本国内で組織的な研究体制をスタートする 45 歳以下 (M.D.は 47 歳以下)の研究者を支援する【スタートアップ】プログラム
- ・がんに関する独創的な基礎研究または臨床研究を行っている 40 歳以下 (M.D.は 42 歳以下)の研究者を対象とした【若手研究者】プログラム

一次選考(書類審査)、二次選考(プレゼンテーション審査)の結果、

【スタートアップ】プログラム交付者 1名、助成金額は 1000 万円(500 万円×2年間)

【若手研究者】プログラム交付者 10名、助成金額は 300 万円(150 万円×2年間)／1名

がそれぞれ採択されました。

MSD 生命科学財団は、生命科学研究の向上と次世代の人材育成のため、社会と研究者のニーズにあわせてその支援をさらに充実させ、人類の健康増進に向けて、より一層貢献したいと考えています。

公益財団法人MSD生命科学財団 について

公益財団法人 MSD 生命科学財団の活動の歴史は、旧万有製薬株式会社(現 MSD 株式会社)が 1989 年から社会貢献活動の一環として、有機合成化学分野を支援していた『万有シンポジウム』の開催に端を発しています。その後、社会の要請に応える形で、循環器領域における海外留学助成の活動が開始され、人類の疾病予防と治療に関する生命科学の研究の奨励と科学者や研究者の育成を目的に、さらに活動を継続的に発展させるため、2002 年に財団法人万有生命科学振興国際交流財団が設立されました(2011 年に公益財団法人に移行)。

2010 年に出捐会社であった万有製薬株式会社がシェリング・プラウ株式会社と統合し、MSD 株式会社となりました。2016 年に出捐会社である MSD 株式会社とその親会社から名称等使用に関する許諾を得て、財団名称を「公益財団法人 MSD 生命科学財団」と変更いたしました。

当財団は、設立以来、新たな研究領域への支援や留学助成の領域拡大など、事業内容のより一層の充実に取り組んでおります。活動の実施にあたり、各分野の第一人者の先生方をはじめ様々な関係者の皆様から、次世代の研究者育成および学術振興の観点から継続的かつ多大なご支援をいただいております。

公益財団法人MSD生命科学財団

担当:増田(携帯 080-5479-1724)

TEL:03-6272-1098 FAX:03-6238-9128

URL: <https://www.msd-life-science-foundation.or.jp/>



研究助成 2017ーがん領域ー交付者

(50 音順・敬称略)

【スタートアップ】プログラム

氏名	所属	研究テーマ
島田 緑	山口大学	がんの増殖制御の解明と革新的治療法の確立

【若手研究者】プログラム

氏名	所属	研究テーマ
池ノ内 順一	九州大学	がん細胞の運動メカニズムの解明
浦山 ケビン	国立成育医療研究センター	ゲノムワイド関連解析のメタ解析と細胞株実験による分子生物学的検証を用いた、小児急性リンパ性白血病の治療薬剤耐性および急性期・晩期合併症発生機序の解明
木下 学	大阪国際がんセンター	脳腫瘍に対するプレシジョンメディシンを実現するための人工知能による画像ー分子遺伝学診断技術の開発
武田 はるな	金沢大学	大腸がんの転移に関与する遺伝子の同定
谷口 浩二	慶應義塾大学	癌・再生における IL-6 サイトカインの働きの研究
樋野 展正	大阪大学	ミスセンス変異集積領域に着目したがん特異的タンパク質間相互作用解析
松平 竜之	京都大学 iPS 細胞研究所	in vivo における細胞競合関連因子の網羅的探索
光永 真人	東京慈恵会医科大学	患者に優しいエネルギーを利用したがん特異的治療法の開発
三村 尚也	千葉大学	骨髄腫モデルマウスを用いた新規エピジェネティック治療の開発
山口 知也	熊本大学	肺腺がんにおける内因性微粒子の制御機構の解明